

犂牛舎の
位置

二町間の
最大難處

E強力の仁
立

氷河に於ける搬送の危険なるが爲め政府は其の前後に犂牛舎を置き、何人に對するも、賃借の便に供す。是に於てか荷物は悉く馬背より犂牛の背に移され、人も亦之に騎して此の氷河の峻路を跋涉するなり。然れども最後の最難處約二町の間は、下乗して杖の扶けに頼り、徐々氷面の凹處を拾ひて進まざるべからず。警戒すればするだけ身體自然に堅くなり、足戦き手慄ひ、呼吸迫り、目眩まんとす。斯て中央に到る頃、唯一の頼みとせし足溜の凹處も俄然絶ゆる處約一間餘、飛ぶに翼なく、歩むに術なし、策盡きて啞然たるもの稍々久うす。突如一強力(カルドン村にて雇入れし者)進み來りて予を背負ひ、儼乎として仁王立と爲れり。鞠躬如として歩を進め、更に危惧の氣色なく、又滑顛の態あらず。或は徐々、或は小走り、辛くも此大難關を通過し畢んぬ。如何に終歲同氷河を往復しつゝ在る山人とは云へ、其の巧妙なること驚嘆の外なく、顧みれば一行中一人の續く者なし。又予と前後して、此坂路に差掛りし旅客(新疆土人の亞刺比亞メツカ參詣に赴く者)十數人は、或は氷河の彼岸に立ちて茫然たる有り、或は氷面に佇立して進退谷まる有り、彼等の馬亦或は仆れ、或は停止し何時跋涉し畢るべきか、頗る同情なき能ず。次で予が乘馬と一人の從僕到着したるに困り、徐